

# 在宅被災世帯における 課題と提案

石巻医療圏 健康・生活復興協議会  
医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック石巻

武藤 真祐

- 1 当協議会の活動概要 5分
- 2 在宅被災世帯の状況報告 10分
- 3 今後の方向性 5分

# 1 当協議会活動概要

## (1) 事業概要

- 石巻医療圏の在宅被災世帯を対象に戸別訪問聞き取りと、専門職支援を行う
- 平成23年10月より活動を開始、年度末までに8,604世帯を戸別訪問し、4,023世帯の聞き取りを実施した。
- 聞き取り世帯のうち、約4割(1,545件)が支援を必要としていた
- 医師や看護師、ソーシャルワーカーなどによる医療介護福祉支援に加え、住環境や物資支援など生活支援も実施した



- 平成24年度は石巻市委託事業として、主に専門職による健康支援を実施している
- 地域の行政機関等と連携し、身体や精神面、ソーシャル問題、住環境の問題等に対して個別支援を行っている
- その他移動型コミュニティバスや心のケアイベント等、集団支援を行っている



訪問調査



専門職フォロー



コミュニティ支援

## 活動エリア

現在、中里地区に拠点を設置し、住吉・湊・渡波・大街道・石巻門脇・山下・牡鹿・北上・河北の各地区の浸水被害があったエリアで活動している



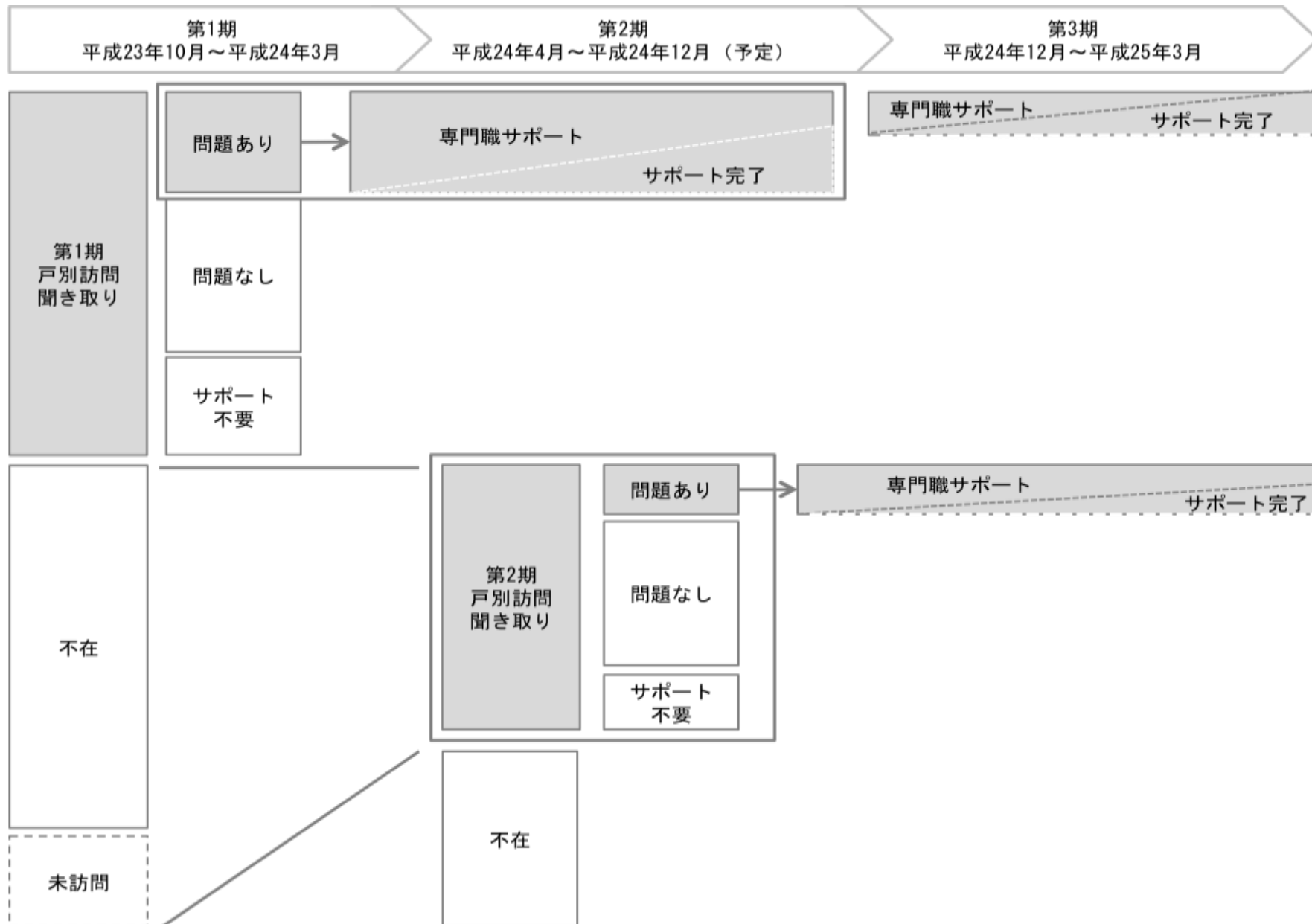
※地区は、石巻市保健師管轄区域を元に設定しております。

# 活動全体図



※は石巻市委託団体

# 活動計画





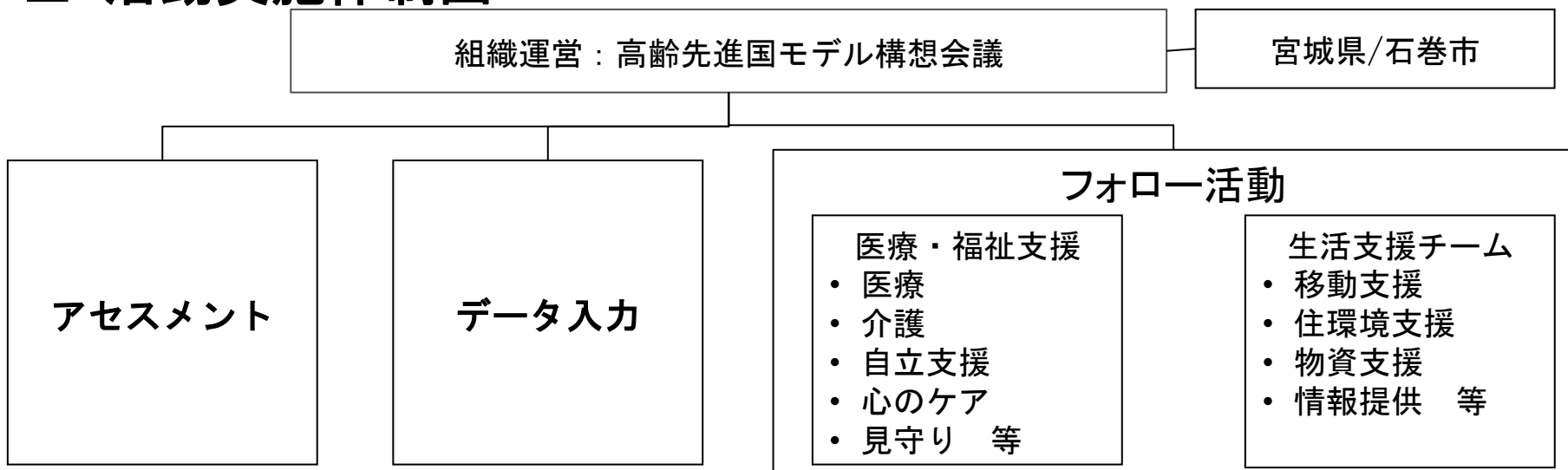
# 石巻医療圏 健康・生活復興協議会概要

## ■ 活動成果・計画

	第1期	第2期 【現在】	第3期
時期	2011年10月～2012年3月	2012年4月～2012年12月頃	2012年12月～2013年3月
人員	約5,700人日	約7,200人日	約2,700人日
訪問数	8,604世帯	計画 約11,000世帯	
聞き取り数	4,023世帯	計画 5,000世帯	
フォロー数	1,545世帯	計画 1,400世帯	

※ 第2期より、人員人日は体制人数×月数で算出

## ■ 活動実施体制図



## (2) 活動報告

# 活動報告 - 戸別訪問聞き取り

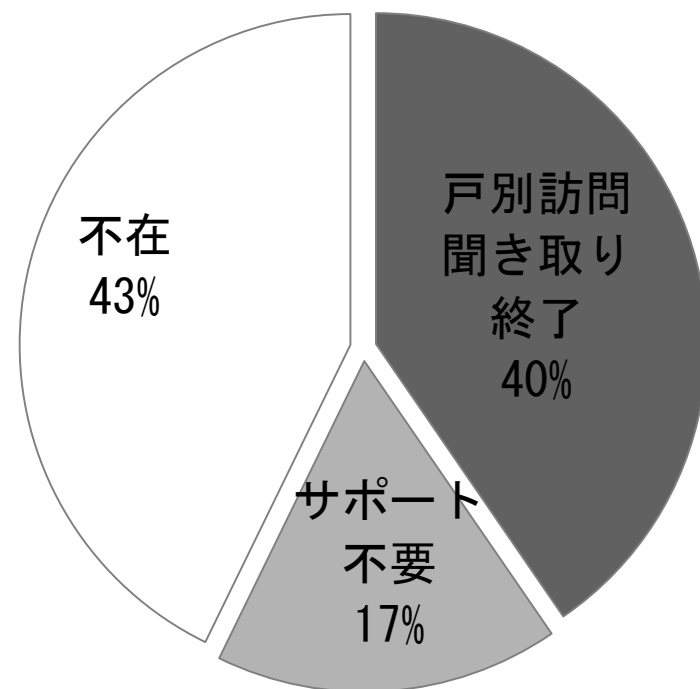
## (1) 戸別訪問聞き取り活動報告

期間：2012年4月1日～2012年9月30日

### [全体]

訪問計画	約11,000世帯
訪問済み件数	6,710世帯 (61%終了)
訪問聞き取り終了	2,712世帯

全訪問に対する内訳



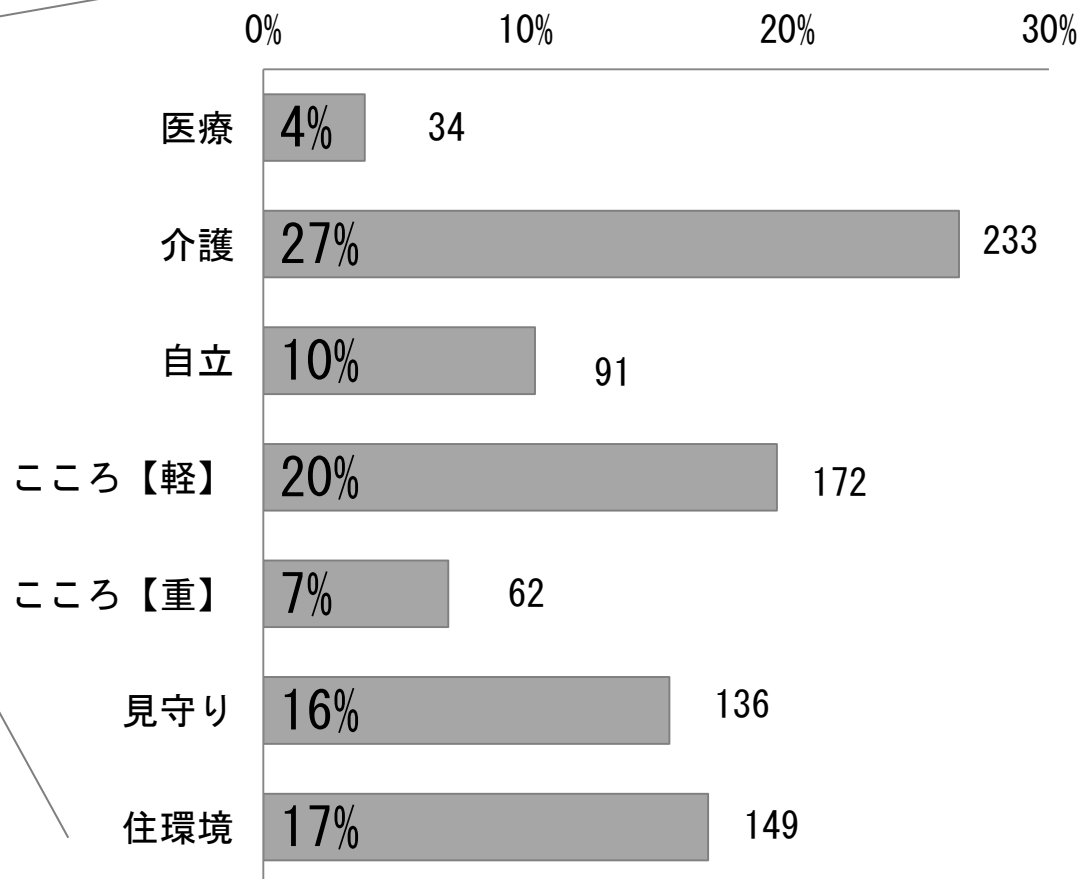
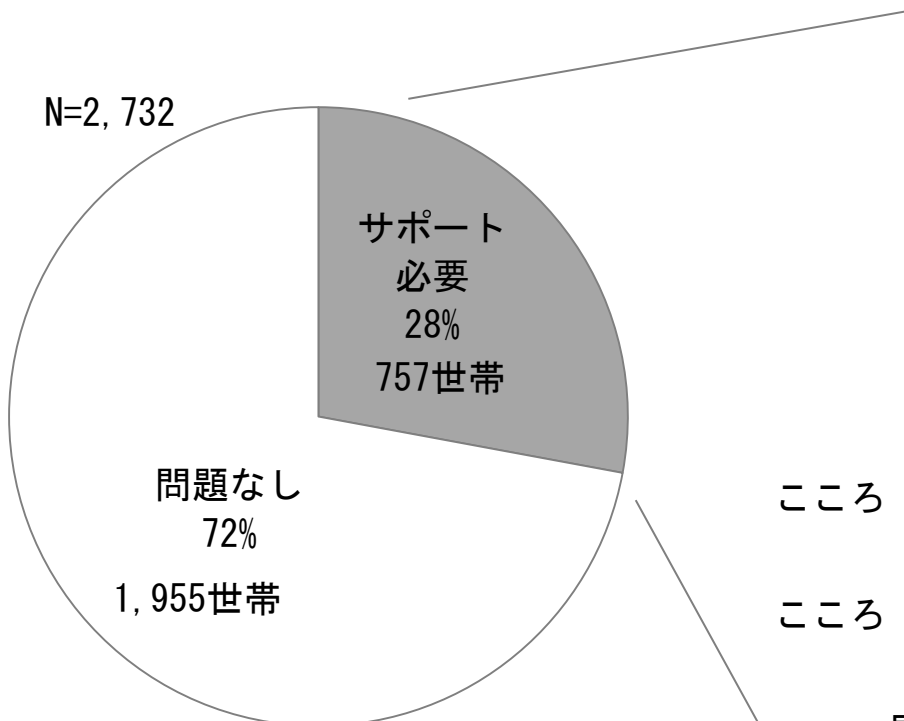
※戸別訪問した際に、不在の場合は「在宅訪問聞き取り調査について」という不在票を残し、後日ご連絡をいただいたお宅へ再度訪問をしています。これにより、対象世帯を網羅します。

# 活動報告 - 専門職サポート

## (2) 戸別訪問聞き取り 判定結果

期間：2012年4月1日～2012年9月30日

対応件数全体におけるサポート別割合



注1) 医療・介護・こころ【軽】/【重】・見守りは個人に対するサポートであり、住環境は世帯に対するサポートである。自立は個人・世帯それぞれに対するサポートを行っている。

注2) 上記は1世帯、1個人に対して複数のサポートが介入する場合もある。

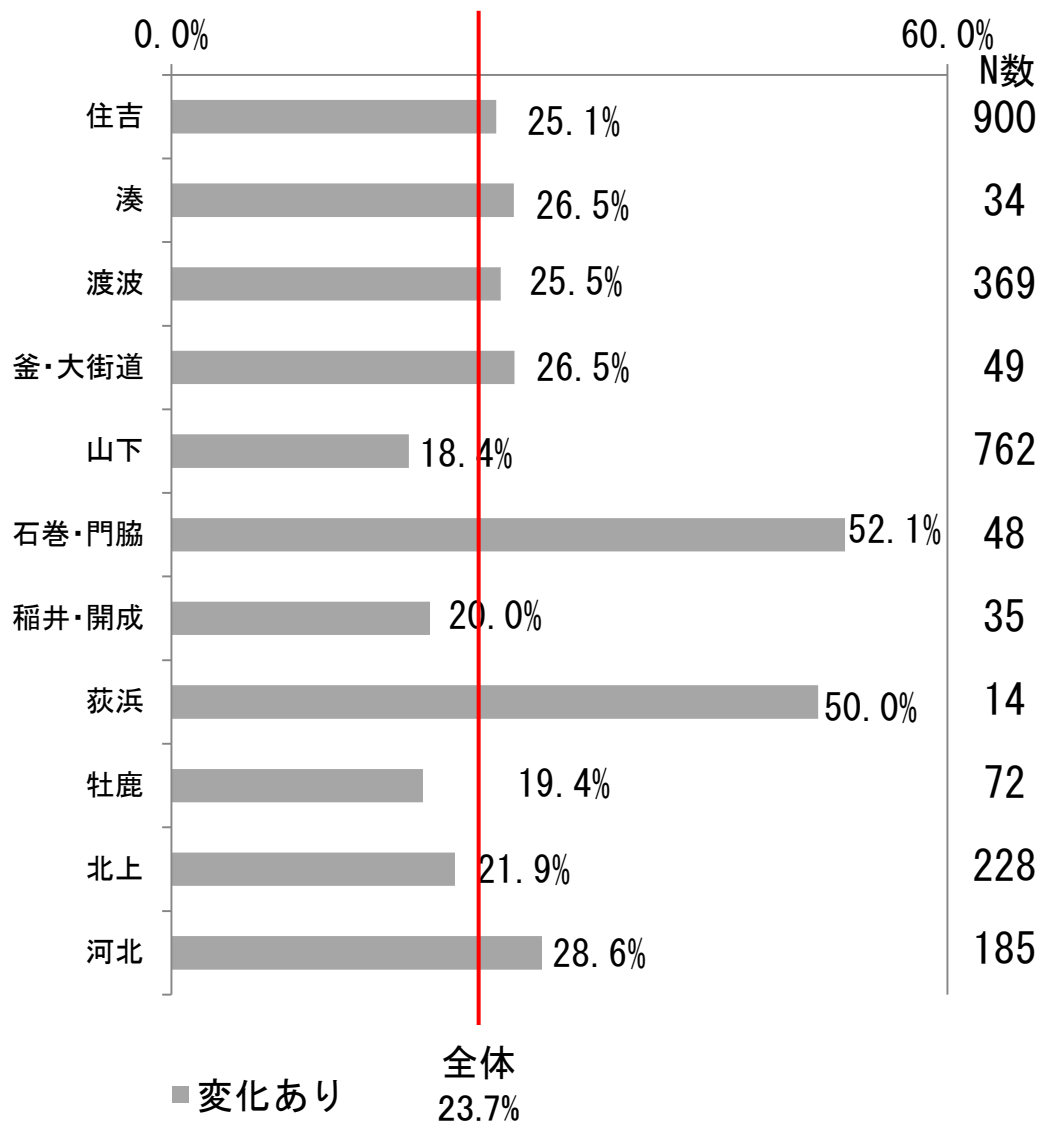
## 2 在宅被災世帯の状況報告

### (1) 聞き取り結果

(2012年9月30日 時点集計)

# 全体の約1/4が震災前後で世帯人数が変化した

震災前から震災後で世帯の人数変化はありましたか（一時的含む）

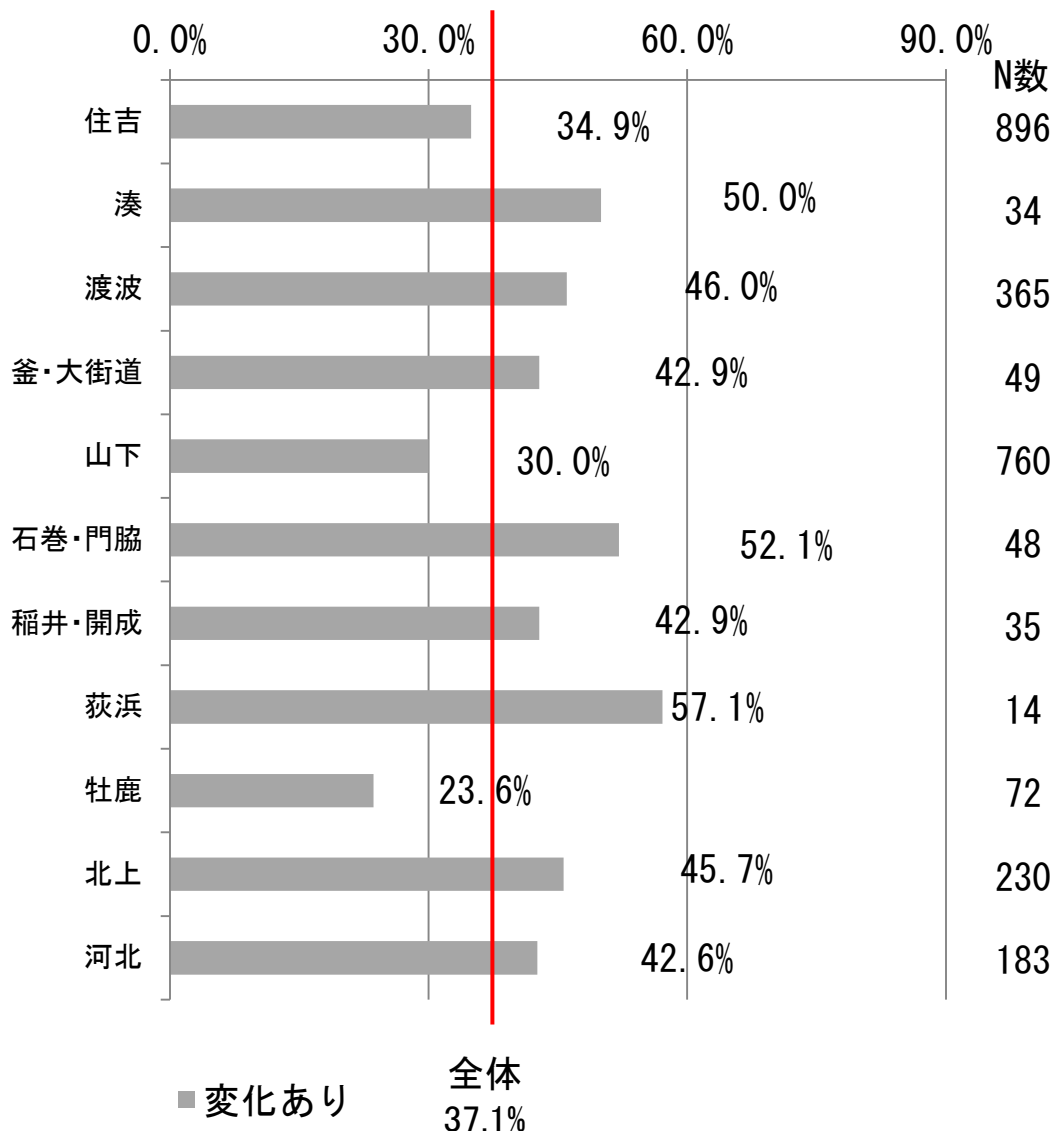


## 住民の状況／住民の声

- 震災後、息子と別居した。
- 妻がなくなり、身内がいなくなった。
- 被害の影響で、同居していた長男夫婦が世帯を出て行ってしまい、ショックを受けている。
- 震災後、両親は部屋の都合で別居している。

# 全体の4割が震災前後で収入の変化があった

震災前に比べて収入に変化がありましたか

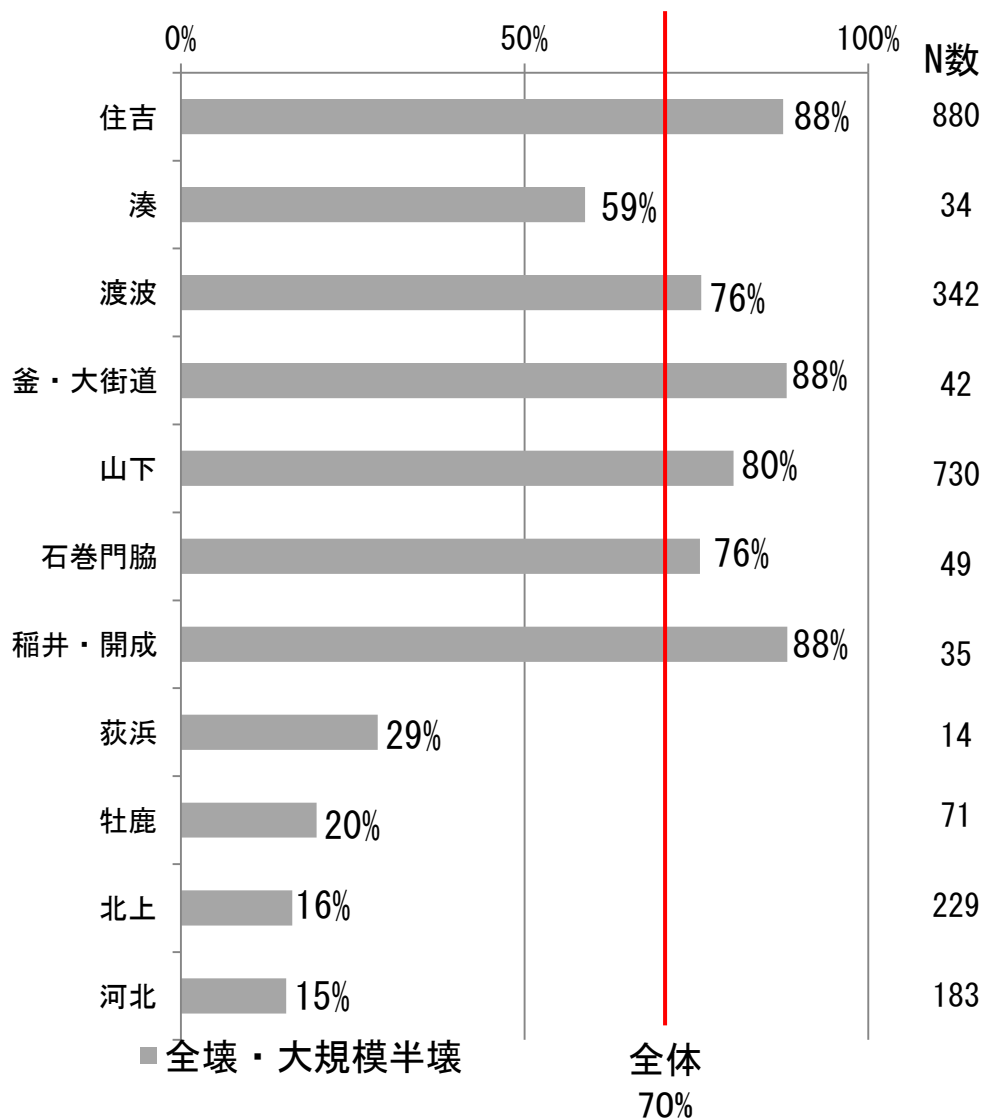


## 住民の状況／住民の声

- 廃業により収入減。
- 仕事がなく、貯金を崩して生活している。
- 震災前は床屋を営んでいたが、被災し廃業。
- 会社が崩れ壊れたので解雇になった。
- 失職により、生活費が厳しい。再就職に苦慮している。

# 在宅被災世帯の約8割が、全壊・大規模半壊である

## 市が判定した損壊状況は何でしたか



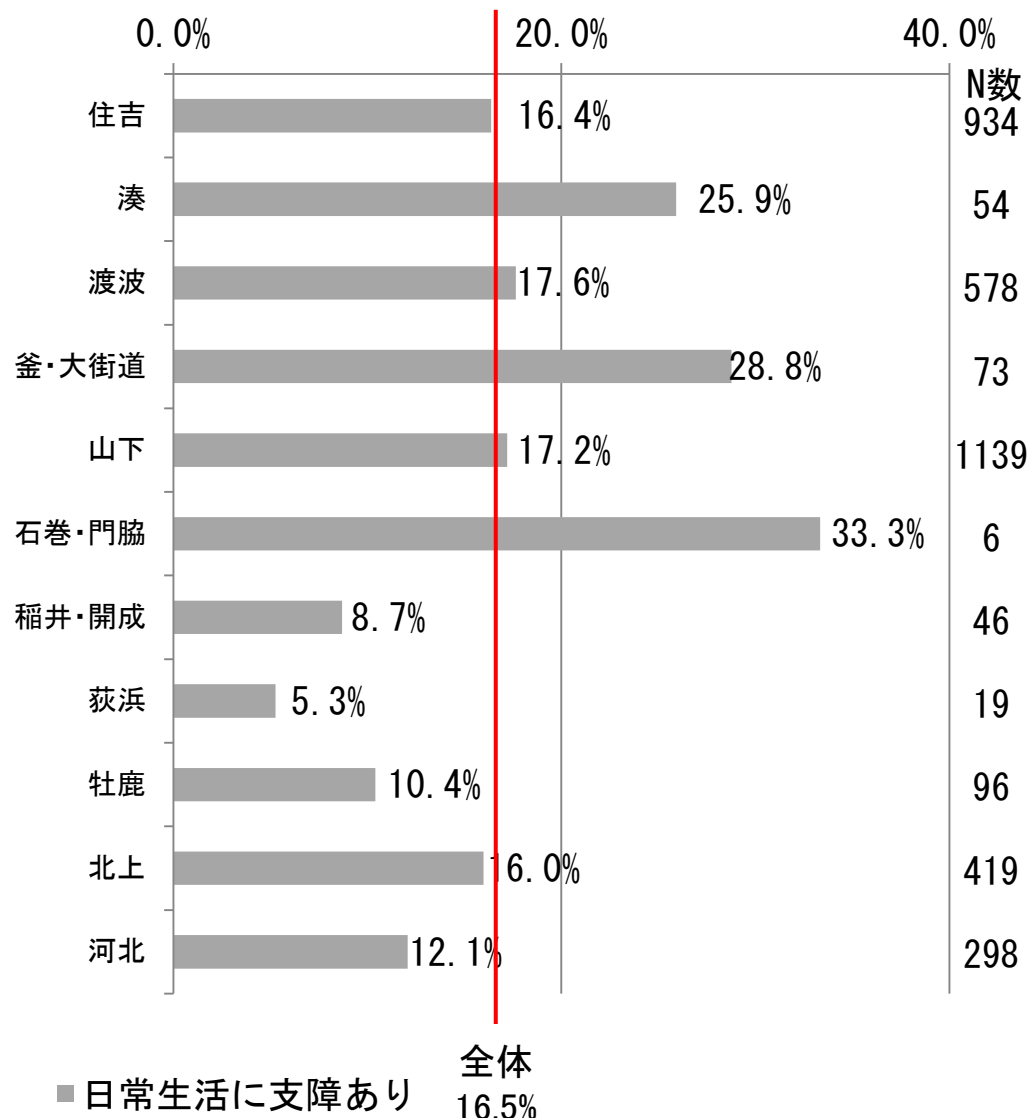
## 住民の状況／住民の声

- 判定基準が地区単位であるため、判定に対して不満がある。
- 浸水が「50cmで全壊」の家があるのに対し、浸水「1m60cmで大規模半壊」の判定。
- 判定によって、税金の免除や加算支援金の申請、義援金の援助に違い



# 被災世帯の15%以上が睡眠に支障をきたしている

睡眠の乱れのため困っていることはありませんか

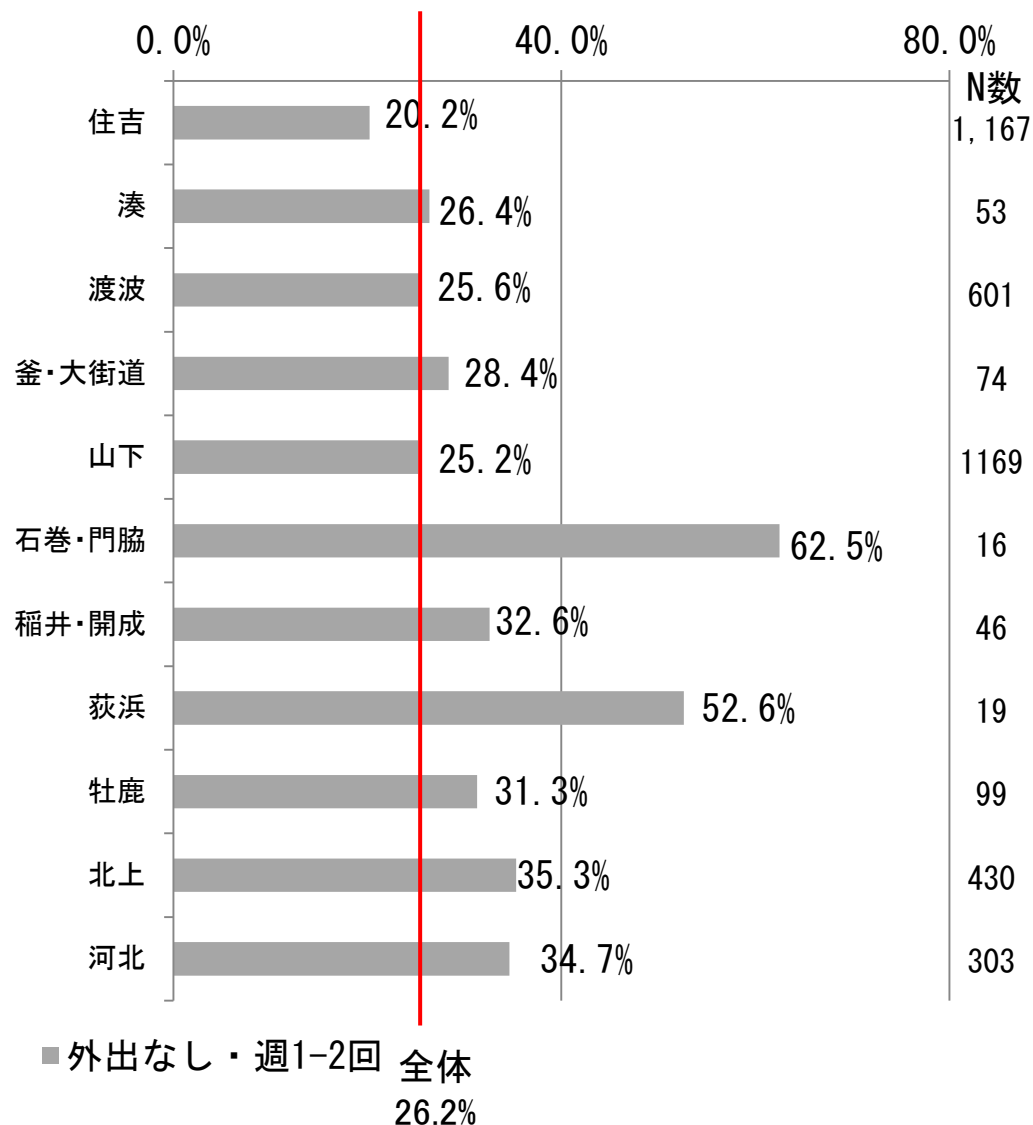


## 住民の状況／住民の声

- 震災後、半年過ぎた頃より、不眠による鬱症状あり。
- 震災後は熟睡できなくなった。
- 長男を震災で亡くしてから、睡眠薬を服用しない寝れない
- 不安や心配でどうしようもないという気持ちが、半年以上続いている。

# 1/4以上の世帯が、1週間の外出機会が1-2回以下である

## 一週間に何度外出しますか

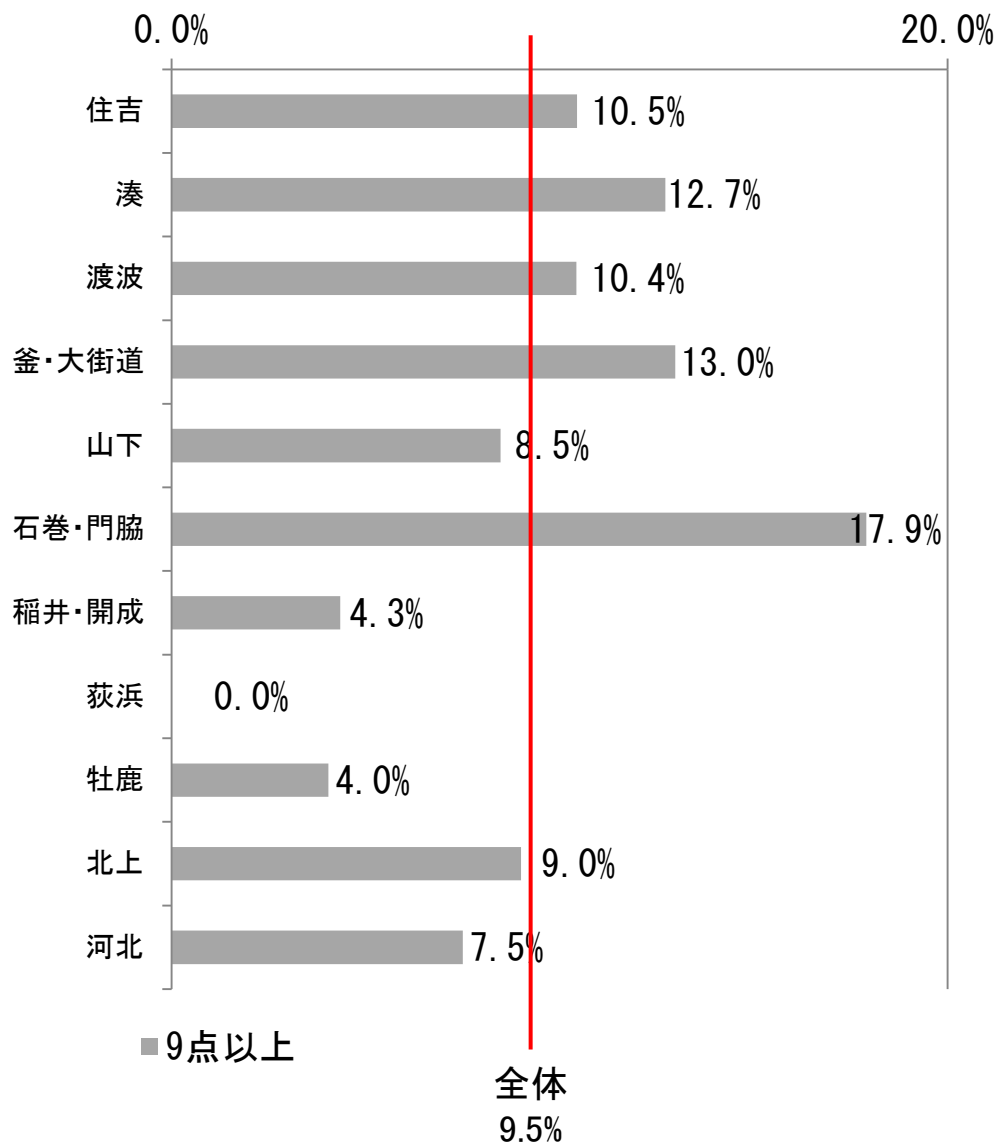


## 住民の状況／住民の声

- 震災後は近所の人との付き合いがなくなり、日中一人でいることが多い。
- デイサービスに週1回の予定で頼んだが、本人が行きたがらない。
- 買い物で外出していたが、極端に外出しなくなった。

# 約 1 割が心のケアが必要な基準を超えている

## 心のケア指標（K6※）の点数



N数

1,368

55

594

77

1,167

67

46

18

99

422

293

※心のケア指標「K6」とは？

・ 心の健康状態を調べるテスト

・ 質問項目は、6つ

- 1 神経過敏に感じましたか
- 2 絶望的だと感じましたか
- 3 そわそわ、落ち着かなく感じましたか
- 4 気分が沈み込んで、何が起ころってても気が晴れないように感じましたか
- 5 何をすることも骨折りだと感じましたか
- 6 自分は価値のない人間だと感じましたか

・ 回答は、5段階。

それぞれの回答で点数が異なる。

1. 全くない (0点)
2. 少しだけ (1点)
3. ときどき (2点)
4. たいてい (3点)
5. いつも (4点)

・ 判断の基準点数

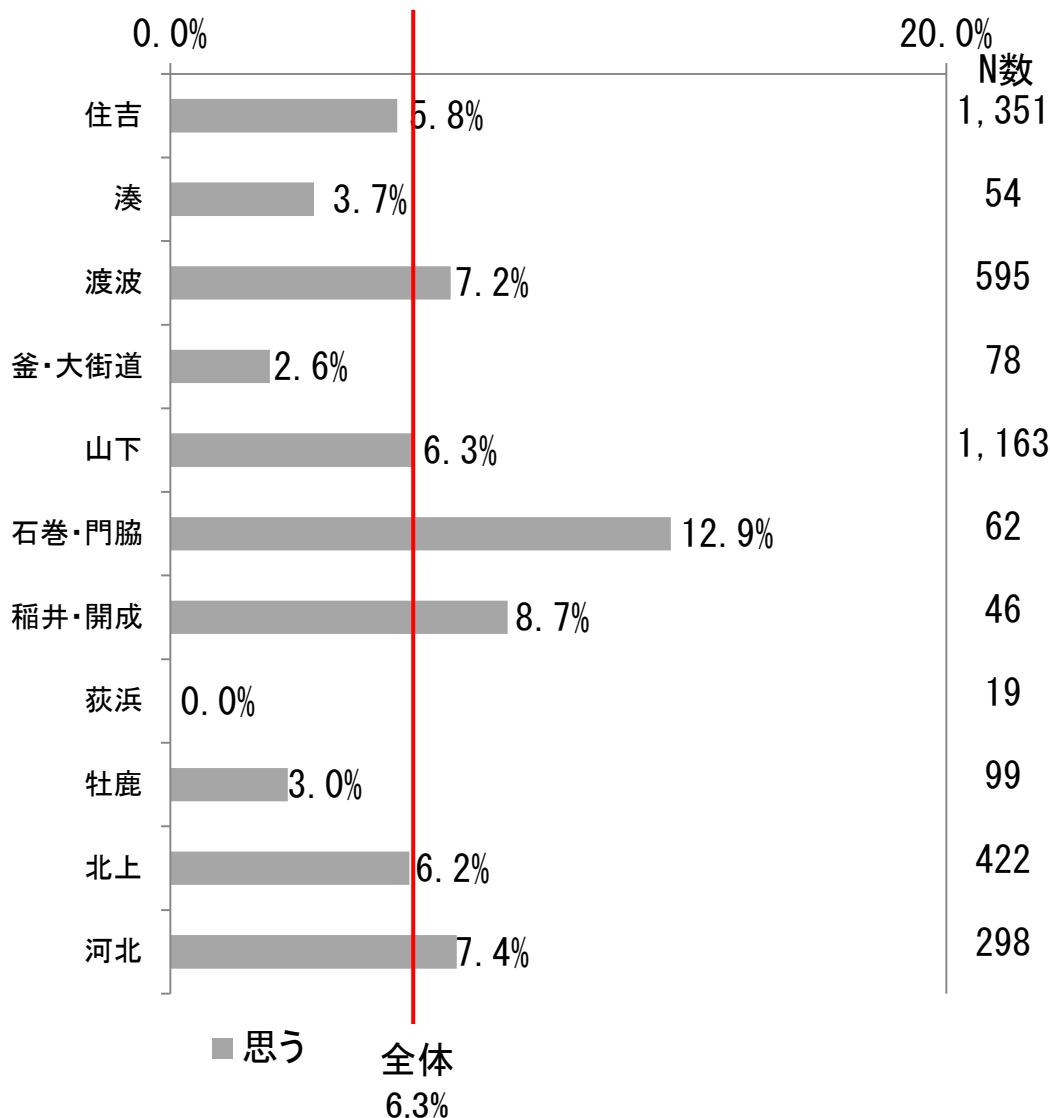
K6の合計点数が13点以上だと「重症、要注意」とされている。石巻市では、9点を基準としている。

・ 当協議会での取り扱い

K6による合計点のみではなく、その他のリスク要因と合わせた独自の判断基準により、心のケアサポート要否を判断している。

# 6%が希死念慮を感じている

生きる希望がない、死んだほうがましだと思いませんか



## 住民の状況／住民の声

- 震災で人生が狂ってしまった。
- 気分は塞いだままで希望を持たずにいる。家族も支えになってくれない。
- 大川小学校に通っていた二人の子供を亡くした。生きる希望も意欲も失った。

## (2) 希死念慮に影響する要因分析

# 希死念慮には「人との交流」「支え」の有無が影響している

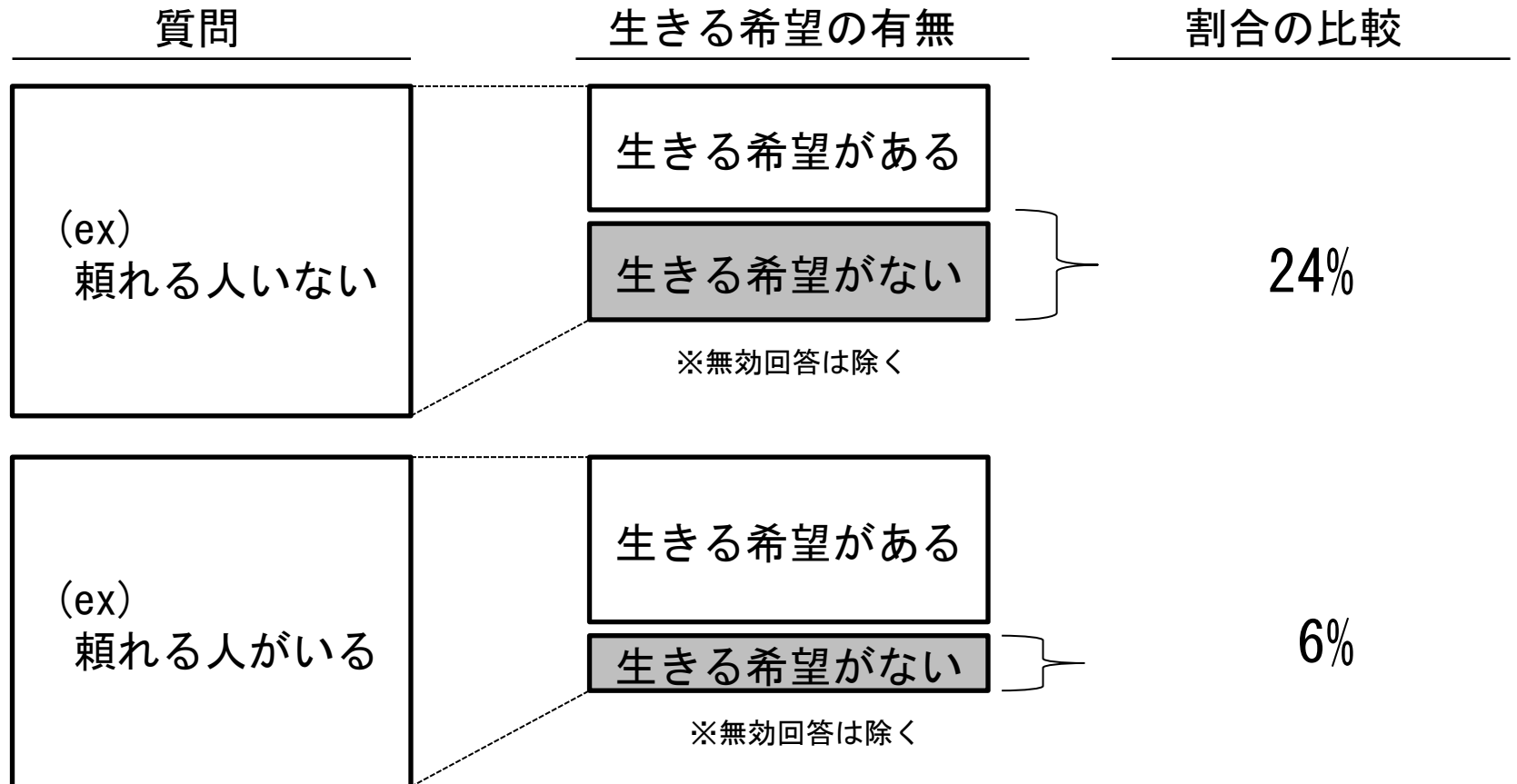
心理状態に影響を与えていると思われる要因について、希死念慮への影響を調べた

1. 「住環境」「就業の変化」は、希死念慮との相関が見られない
2. 希死念慮に影響する項目は、主に以下5つが挙げられる
  - ① 独居
  - ② 外出機会が少ない・運動をしない
  - ③ 頼れる人がいない
  - ④ 介護の負担がある
  - ⑤ 初期認知症の兆候を感じている
3. 外部に助けを求めない人へのアプローチが重要である

## クロス集計の比較方法について

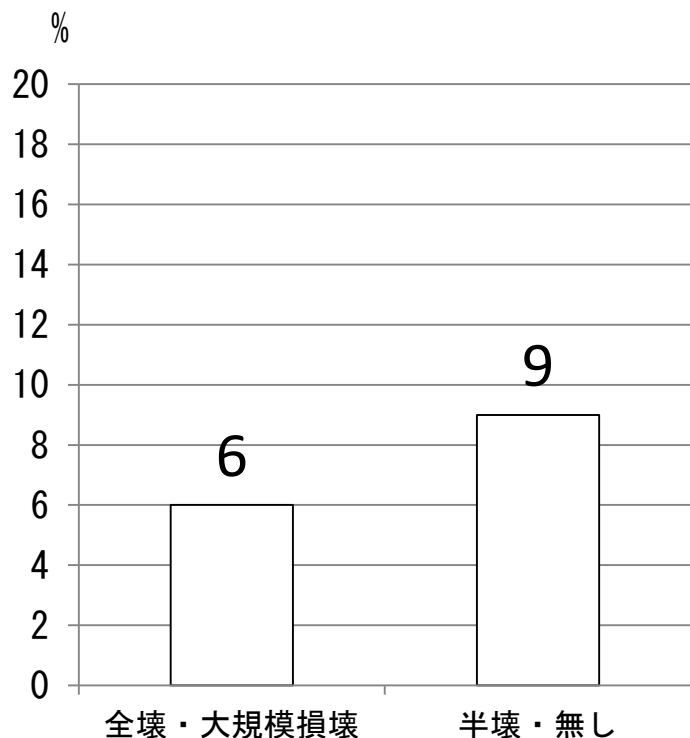
「心にストレスを与える要因」と思われる質問の回答者の中で、回答ごとにどのくらいの割合で、「生きる希望がない」と答えた回答者がいたかを、比較した。±3%以上は、「関連ある要素」とした。

例：クロス集計の比較についての概念図

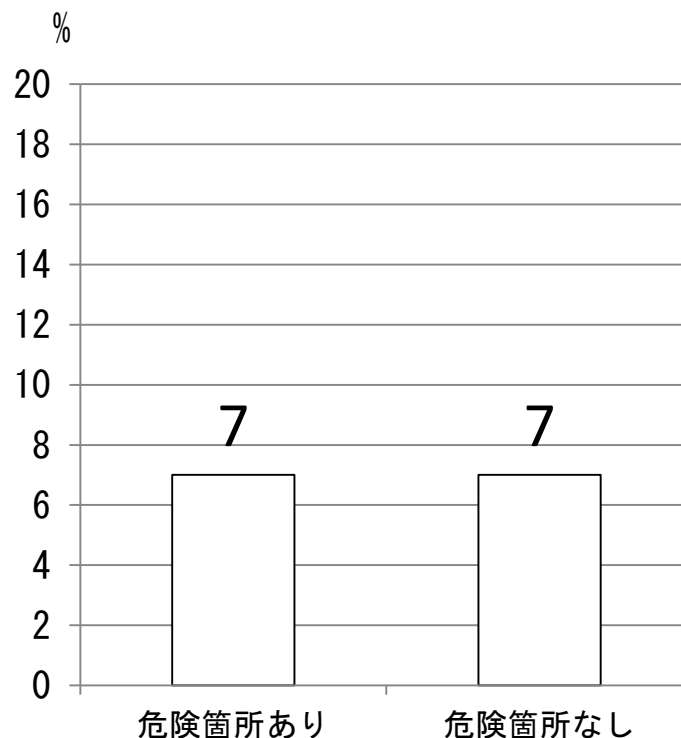


# 住環境の状況と希死念慮を持つ人に、関連は認められなかった

住居の損壊状況が大きかった世帯と、そうでない世帯で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較



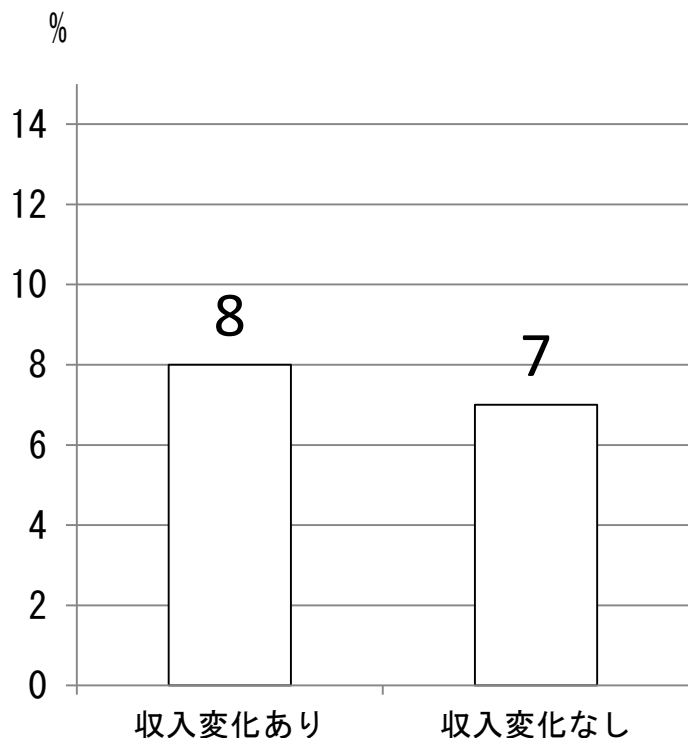
住宅に危険箇所がある世帯と、危険箇所がない世帯の中で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較



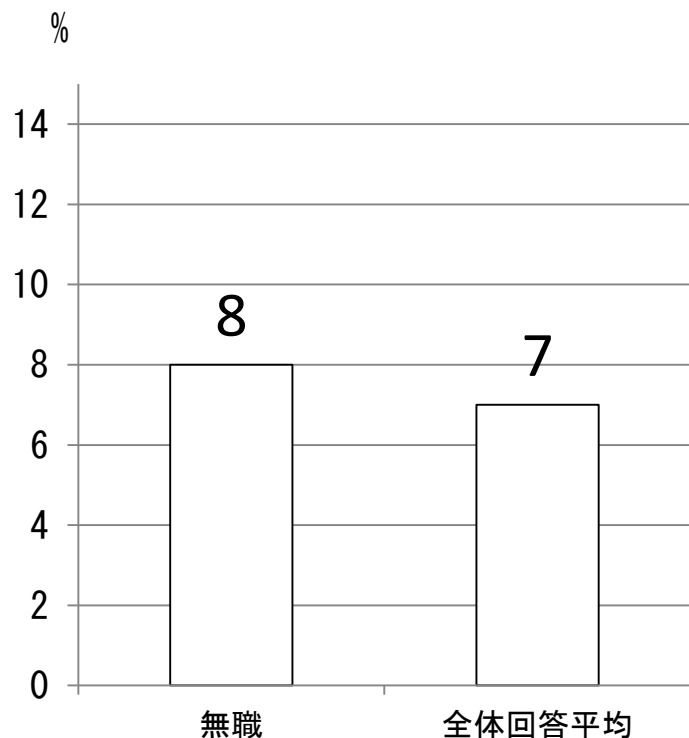


# 職業・収入と希死念慮を持つ人に関連は認められなかった

震災後、収入に変化があった世帯と、そうでない世帯で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

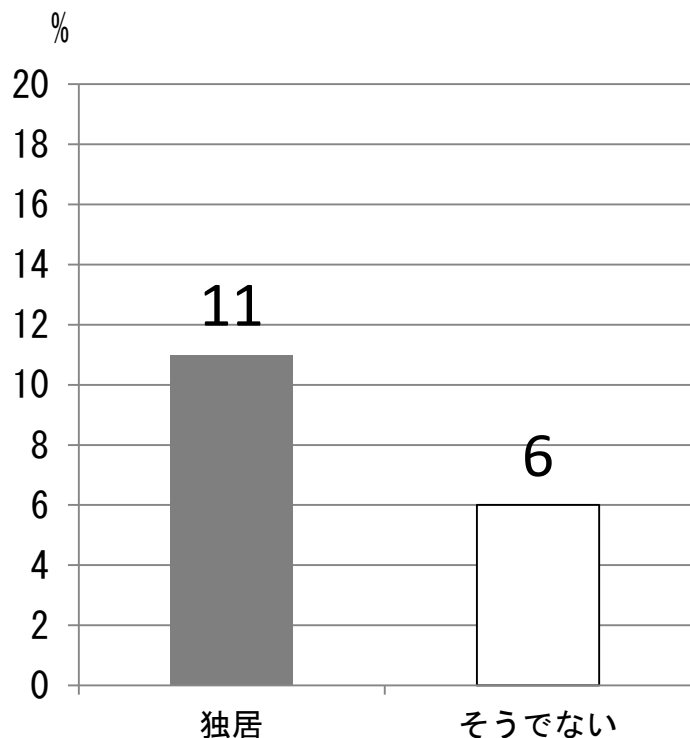


無職である方（年金生活者含む）とそうでない方で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

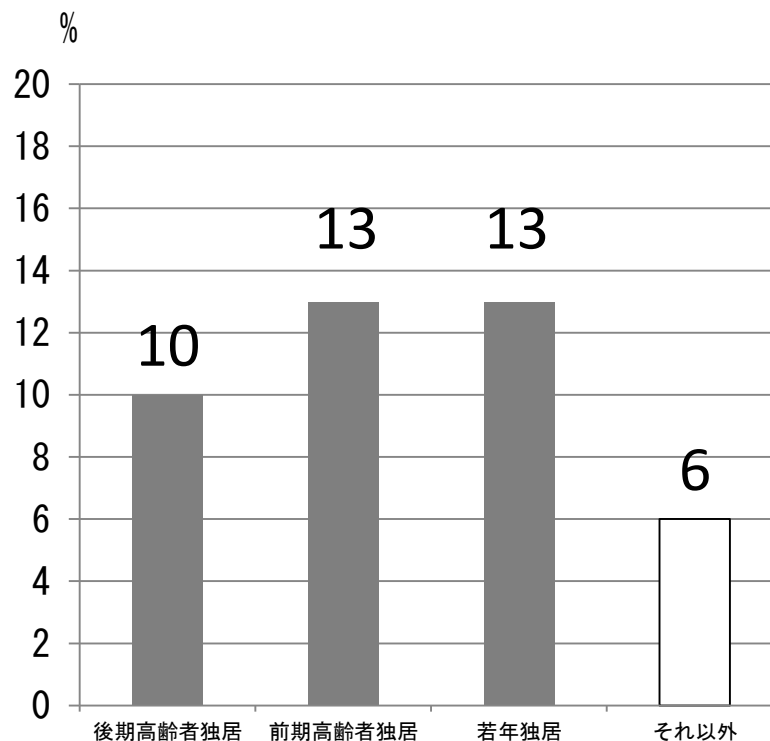


# 独居・75歳未満層が、希死念慮を持つ傾向がある

独居世帯と、そうでない世帯で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

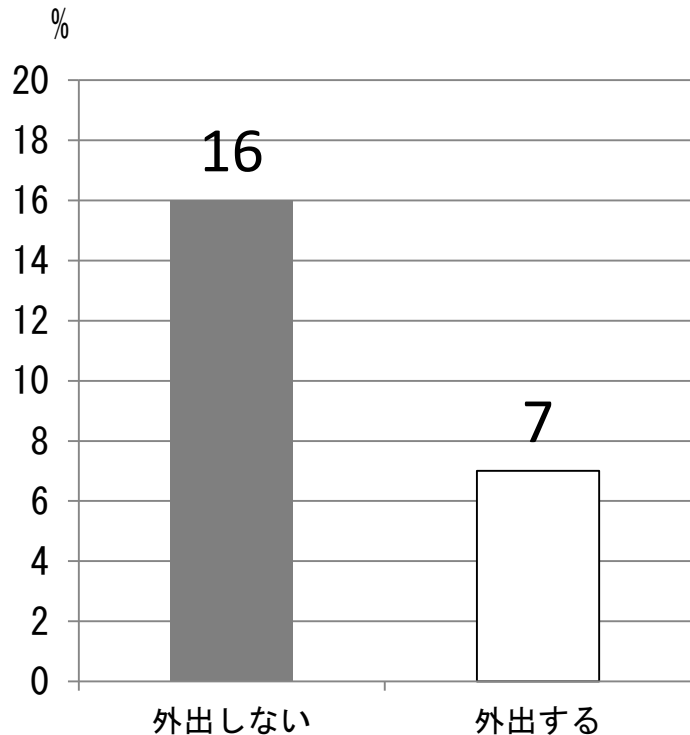


65歳以上の高齢で独居世帯とそうでない世帯で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

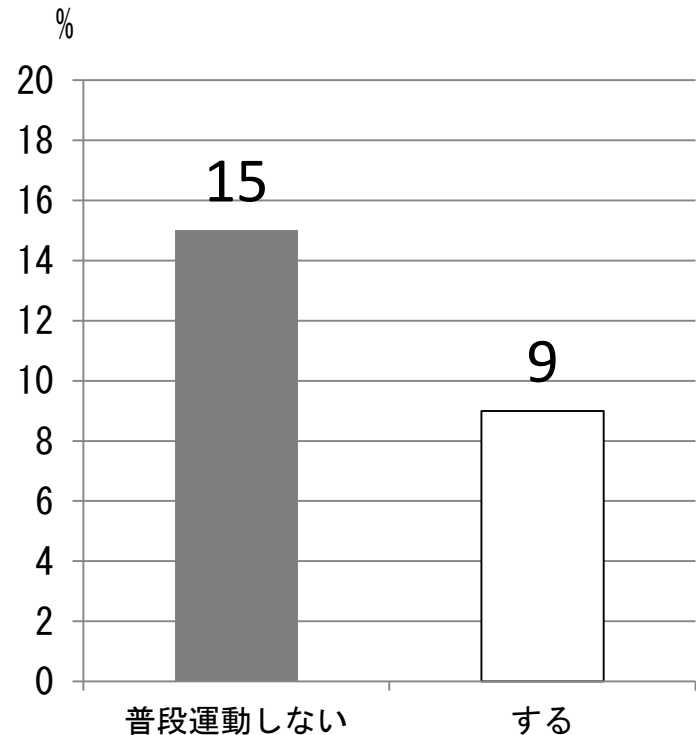


# 外出頻度・運動量は、希死念慮と関係している

外出の機会がある人と、そうでない人で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

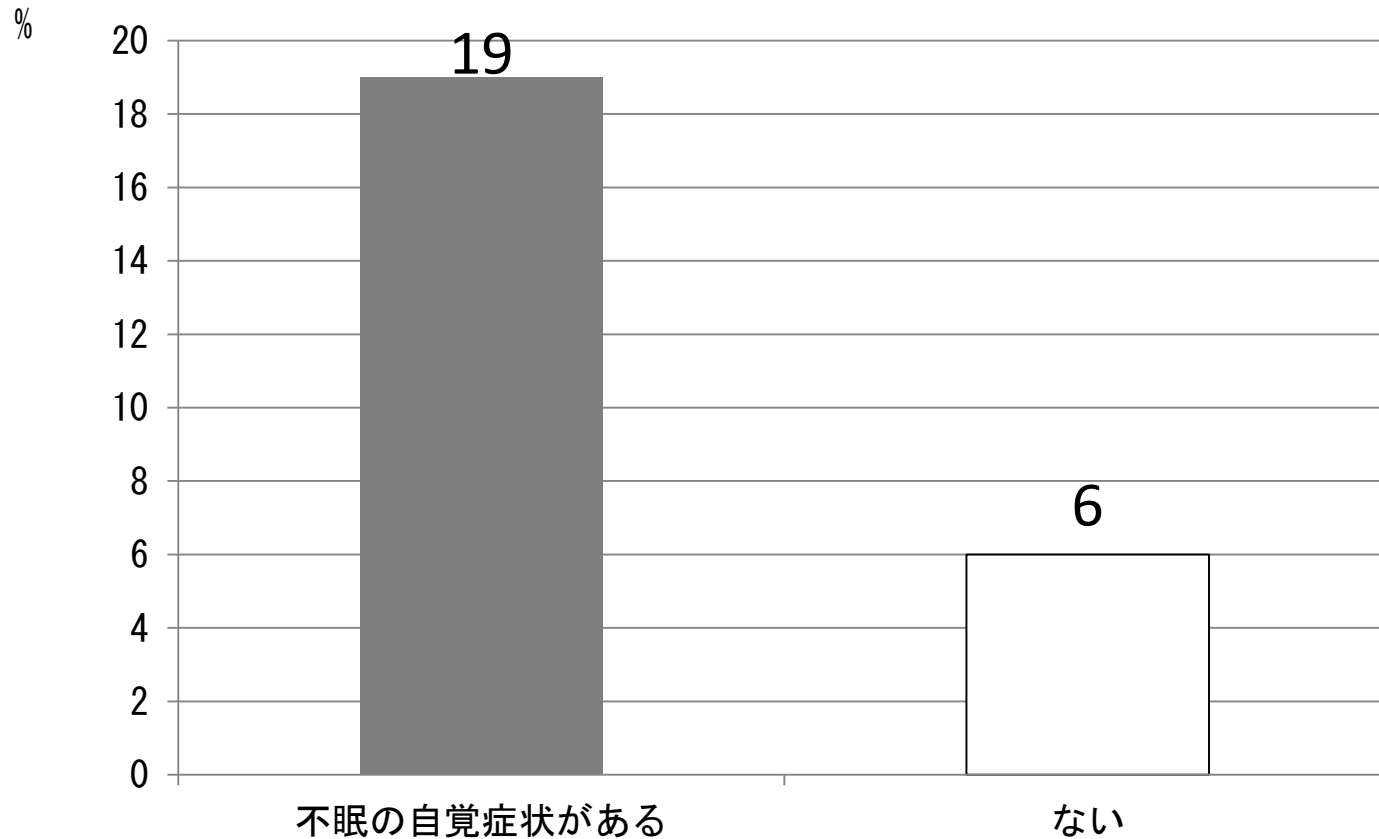


普段運動をすると答えた人と、そうでないと答えた人で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較



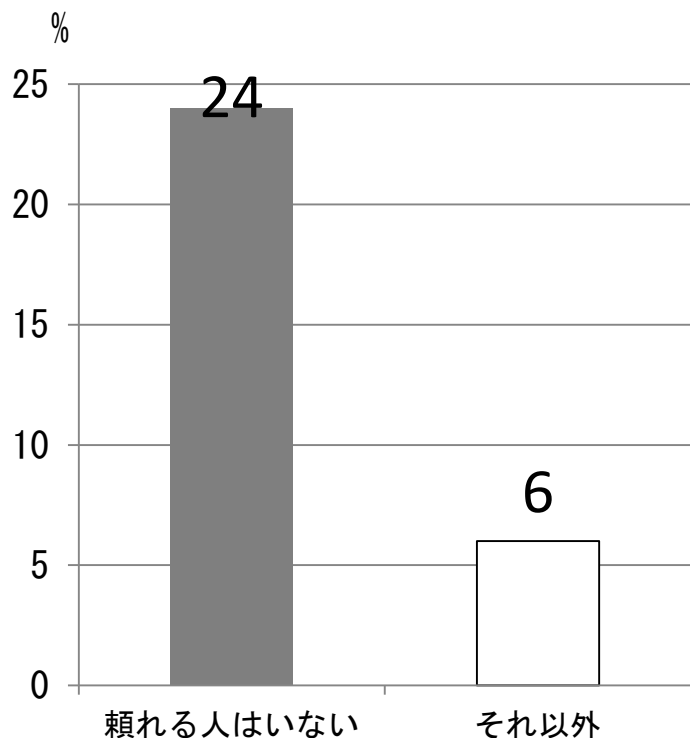
# 不眠の自覚症状がある人は、希死念慮が高い

不眠の自覚症状がある人と、そうでない人の中で、  
「生きる希望がない」と答えた人の割合の比較

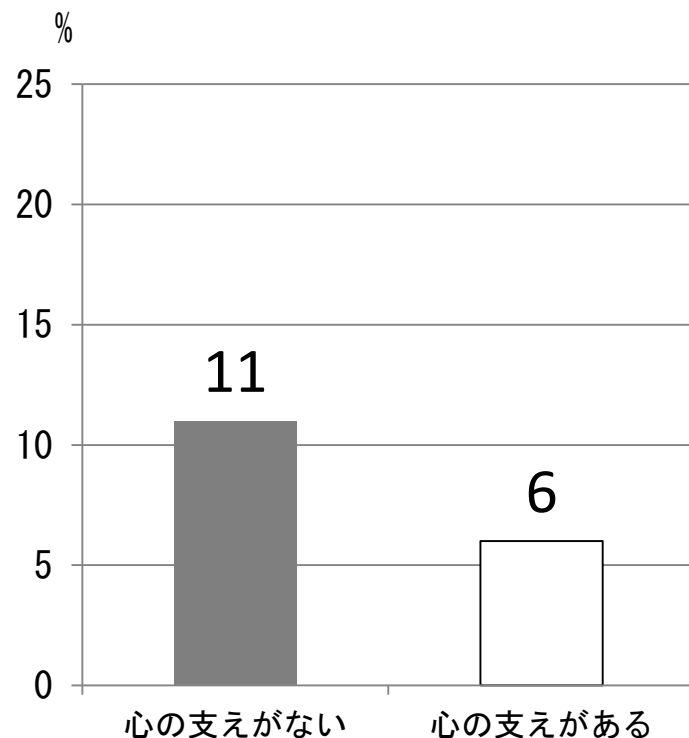


# まわりに頼れる人がいないことが希死念慮に大きく影響する

「頼れる人はいない」と回答した人と、そうでない人で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

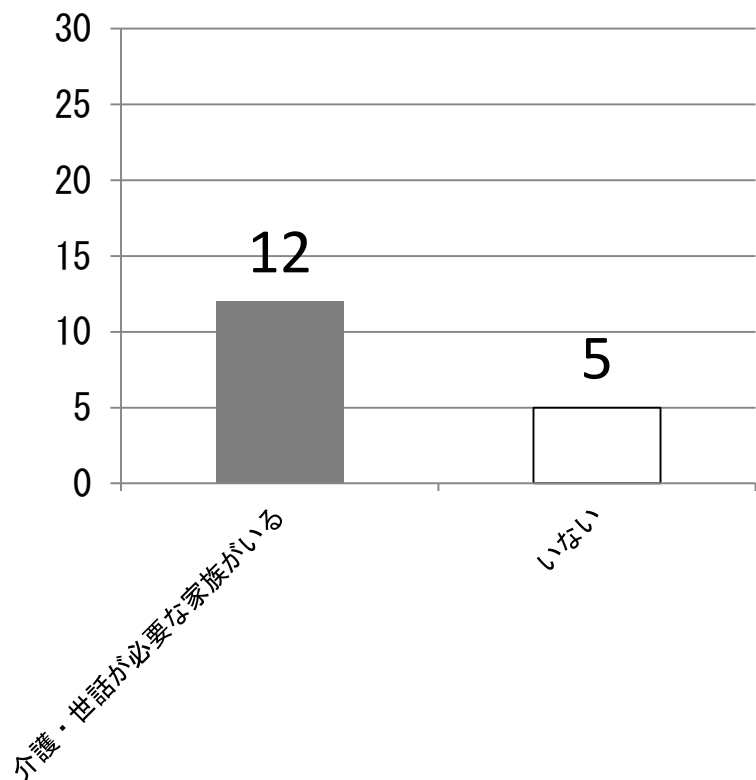


「心の支えがない」と回答した人と、そうでない人で、「生きる希望がない」と回答した人の割合の比較

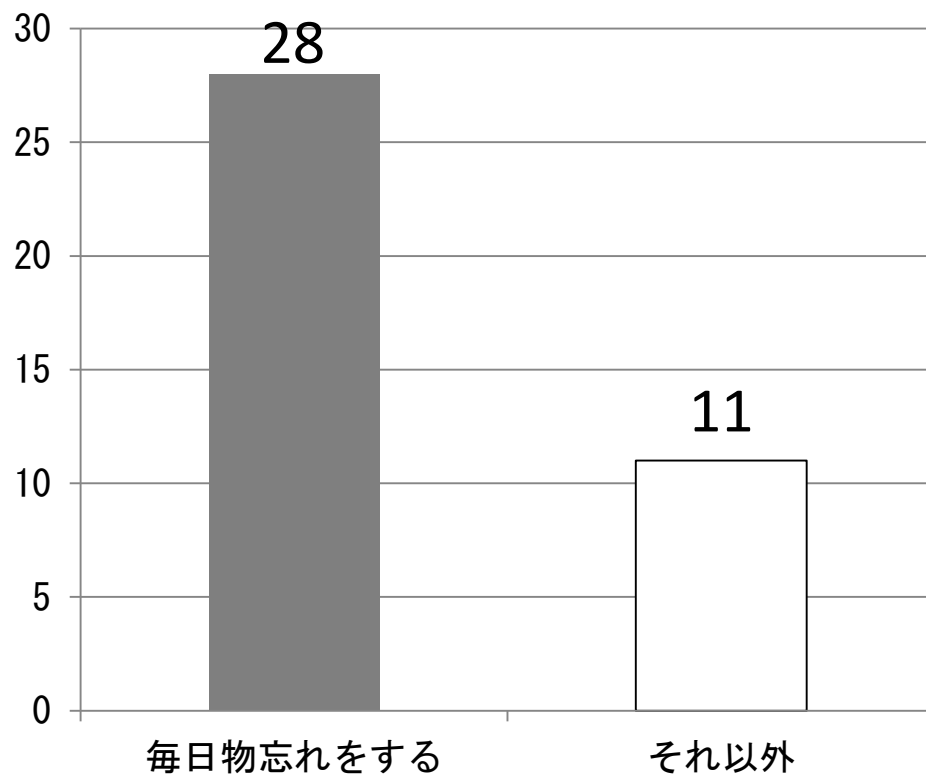


# 介護者への負担、初期認知症の傾向は希死念慮に影響している

介護・世話が必要な人がいる世帯と、そうでない世帯の中で、  
% 「生きる希望がない」と答えた人の割合の比較



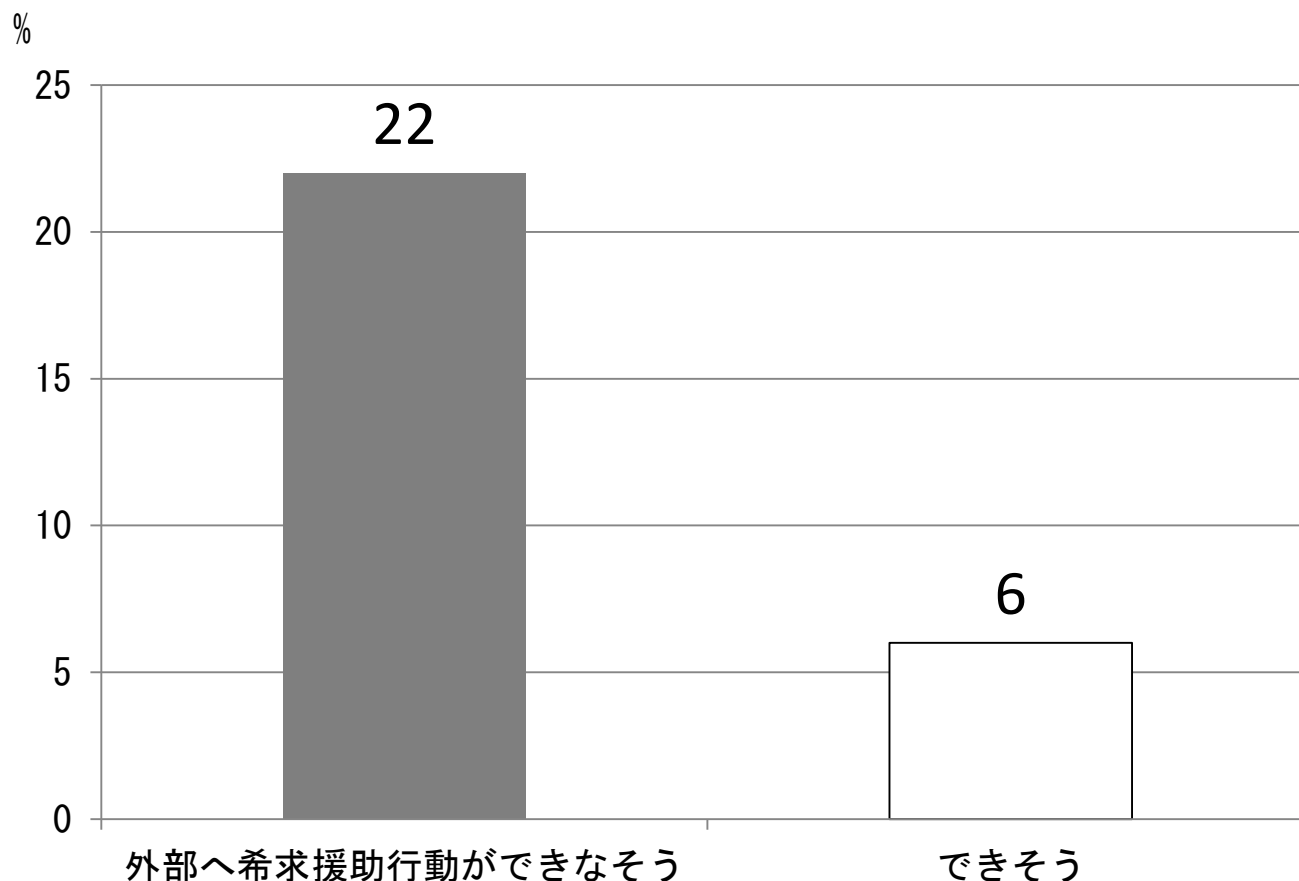
「毎日物忘れをする」と答えた人と、そうでない人の中で、  
% 「生きる希望がない」と答えた人の割合の比較



# 外部希求行動をしない人への、支援が求められる

希求援助行動ができそうな世帯と、「生きる希望がない」と答えた人に、関連が認められた。  
自分から、助けを求めない世帯にもフォローが必要である。

住民支援専門員の判定で「外部へ希求援助行動ができそう」な世帯と、  
そうでない世帯の中で、「生きる希望がない」と答えた人の割合の比較



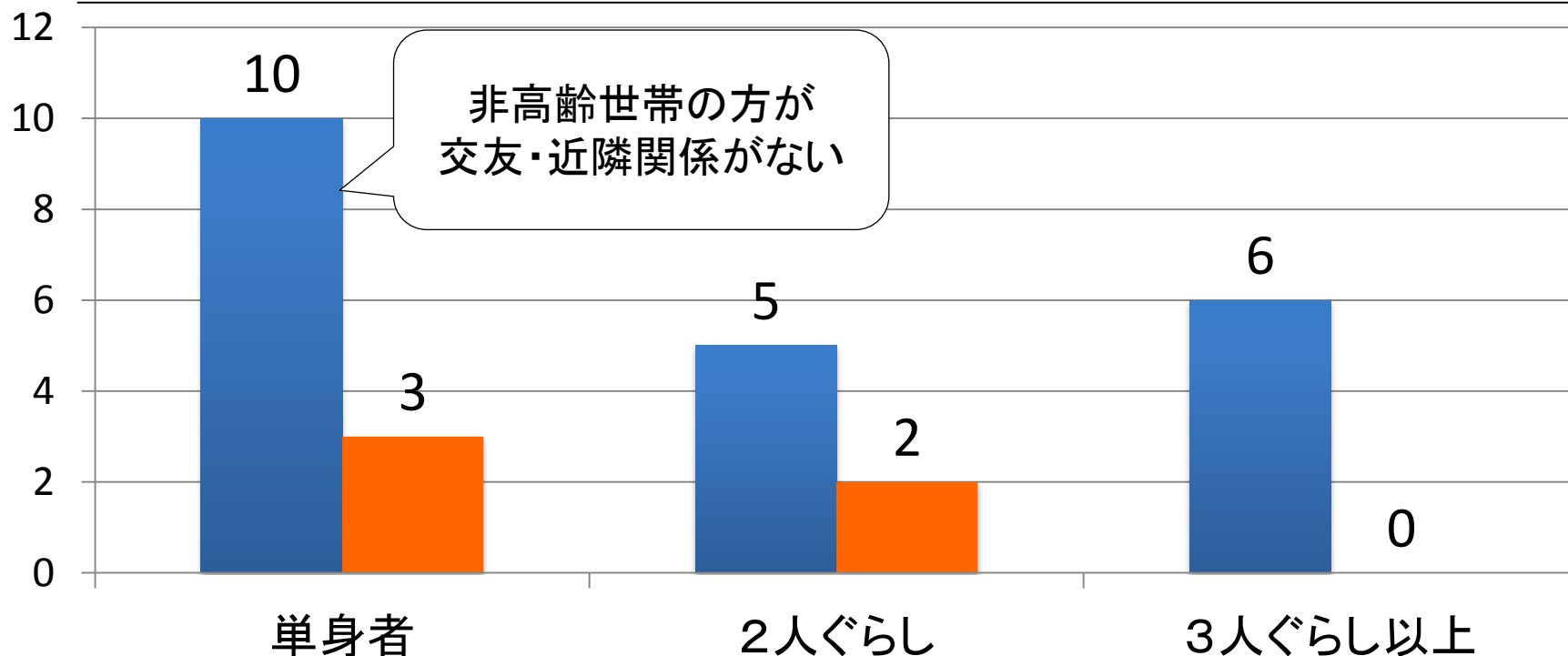
## (3) 交流に関する分析



# 高齢者のみならず、若い世代の孤立の危険性が高い

- ・ 非高齢の単身者では、高齢の場合に比べて交流がなく、近所づきあいも浅く、楽しみを持っていない傾向がある。

「世帯構成人数」と「近隣と交流がない」と答えた人の割合  
青＝非高齢世帯。オレンジ＝高齢世帯



第1期調査結果より、帝京大学大学院公衆衛生学研究科まとめ

## (4) 住民の声分析

# 住民の声から公助・共助による解決の方向性が明らかになった

## 住民の声

- 制度・都市計画へ要望がある
- 就労・経済問題を抱えている
- 施設・スペースがほしい
- 家屋に課題を抱えている
  
- 精神的な問題を抱えている
- 身体的な問題を抱えている
- 引きこもり・孤立、交流がない
- 情報が不足している
- 認知症に関連した問題がある

## 解決の手段

**公助**

制度・設備  
産業復興

**共助**

地域コミュニティ

## 住民の声

制度・都市計画へ  
要望がある

- 仮設住宅などとの不平等感がある
- 情報伝達・制度対応を円滑をのぞむ
- 将来の都市計画を明確にしてほしい

家屋に課題を抱え  
ている

- 住居を補修したい
- 居住環境を改善したい
- 住んでいる場所に留まりたい

場所・施設  
がほしい

- 場所・施設がほしい  
(買物、保育所、子供の遊び・運動等)

就労・経済問題を  
抱えている

- 再就職先がみつからない
- 生活困窮、
- 事業再開資金の不足

## 解決の手段

- 不平等感の解消
- 都市計画
- 住環境
- 産業復興  
(雇用確保)

## 住民の声

精神的な問題を抱えている

- 生きがいを喪失した（就業・趣味等）
- 将来への不安が強い
- PTSDや精神に起因する身体症状を抱えている

身体的な問題を抱えている

- 生活不活発／運動量が低下した
- 持病・ADL（日常生活動作）が悪化している
- 粉塵による呼吸器障害がある

引きこもり・孤立  
交流がない

- 孤独への不安がある、孤立している
- 相談できる機会・場所が欲しい
- 地域コミュニティの再構築をのぞむ

情報が不足している

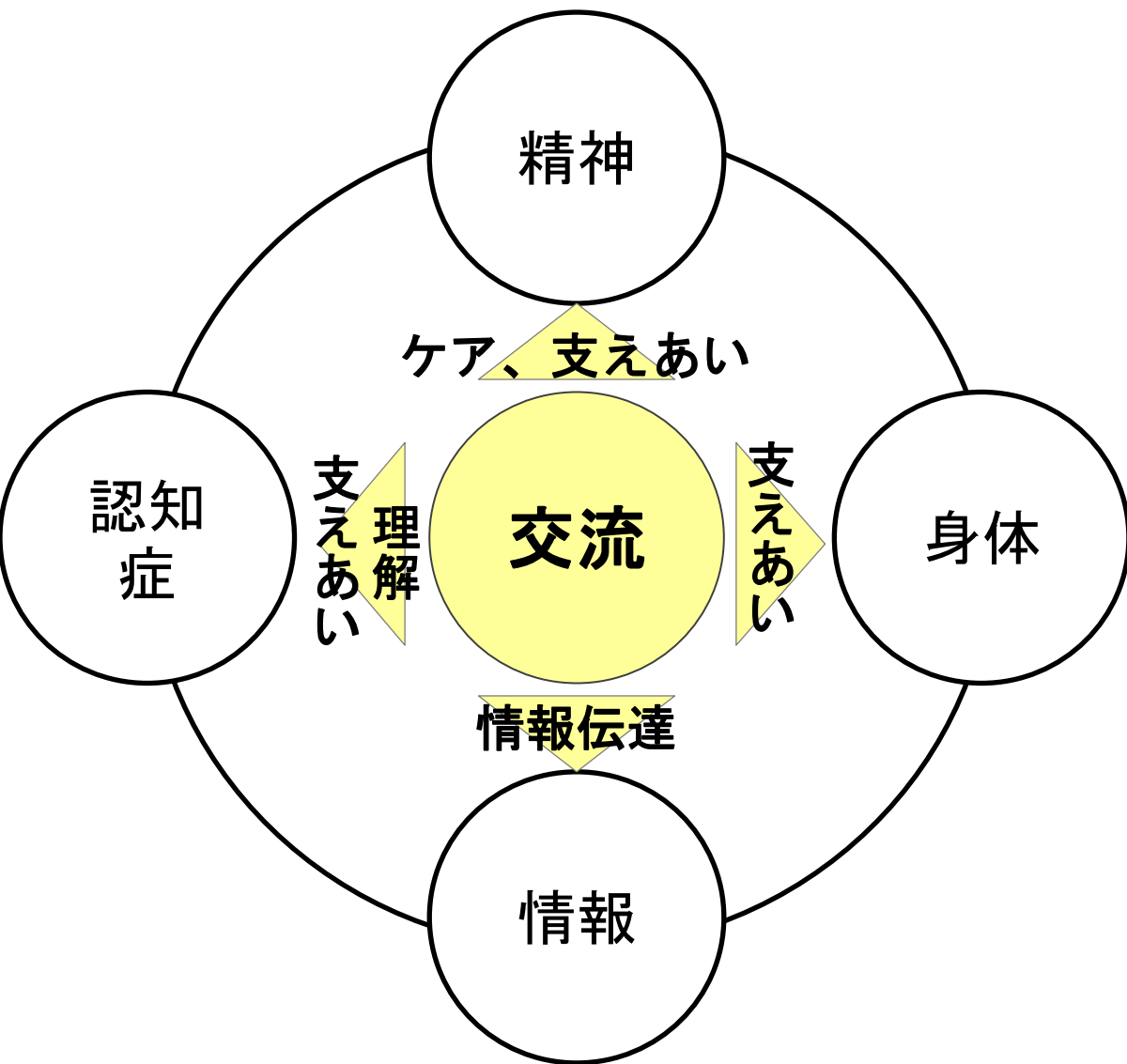
- 制度についてわかりにくい、情報が届かない
- 自分の健康のための情報が知りたい（食事、医療費など）
- 地域の交流イベントに関する情報がほしい

認知症に関連した問題がある

- 環境変化により認知症が進行している
- 認知症進行により生活上の困難がある
- 介護疲れがある

# 共助／地域で「孤立を防ぐ」仕組みづくりが求められる

## 解決の手段

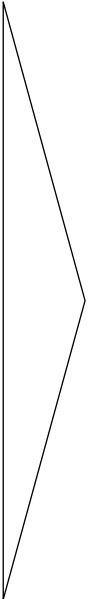



交流により、

- 地域の力を高める
- 住民の自らの力を引き出す

### 3 今後の方向性

# これまでのまとめ

- 震災前後の世帯の状況変化は著しく、サポートを必要としている人たちは依然3割存在する
  - 希死念慮の背景に「孤立」「認知症」の問題がある
  - 住民は、精神・身体・認知症関連の問題を抱えている
  - 仮設住宅との不平等感が強い  
仮設住宅世帯→復興住宅へ  
在宅被災世帯→浸水地域に今後も散在して居住
- 
- 問題が長期化、複雑化、困難化しており、細かくタイムリーに状況を把握し、行政や専門家へ繋ぐ体制強化に努める
  - 地域内の交流により、住民どおしの理解の促進と支え合いの仕組みづくりに努める

- 
- 訪問や巡回といった「住民との接点」の強化に努める
  - 多様な専門家が協働する、官民のプラットフォームを構築する
  - 地域にはすでに好事例がうまれている。学び合い実践するための支援を行う



御清聴ありがとうございました



石巻医療圏  
健康・生活  
復興協議会



石卷医療圏  
健康・生活  
復興協議会